

## 平成28年度9月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成28年9月5日（月）午前11時00分～11時45分

場所 市役所2階 第3委員会室

出席 市政記者クラブ9社

### 会見内容

#### 1. はじめに

- 先月は、観測史上初めて北海道に3つの台風が上陸したことにより、大雨そして強風により道内各地に大きな被害が発生し、さらには、台風第10号の影響で、複数の河川が氾濫し、住宅や農地、道路等に甚大な被害が発生いたしました。
- 市内においても、台風で、家屋等の破損、停電や通行止めが発生し、市民生活に影響がありました。あらためて、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。
- このような中、現在も、道央圏とひがし北海道方面を結ぶ交通網の一部が不通となっておりますが、道東自動車道の通行が可能であり、空路、都市間バスでは増便が実施されているなど一定の物流や交通手段が確保されていることについては、市民の皆さんも安心していただいていることと思います。
- これまでの台風による被害に関するご相談がございましたら、資料を配らせてもらっていますが、相談代表窓口の地域福祉課にお問い合わせをいただき、対応しているところです。

#### 2. 話題提供(2項目)

##### 1. 「(仮称) 釧路わかもの会議」の創設に向けて

- 「(仮称) 釧路わかもの会議」の創設に向けて発起人会を開催したことをお知らせさせていただきます。
- 釧路市では、今後のまちづくりの重要な課題となる人口減少問題に立ち向かうために、昨年12月に「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。
- 総合戦略の重点目標として「『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ」を掲げ、若者が未来の釧路に希望を持てるまちづくりの実現に向けて、若者主体の組織を創設し、若者主体の議論を進めるとしたところです。この度、8月25日に「(仮称) 釧路わかもの会議」の創設に向けた発起人会を開催したところであります。
- 発起人には、釧路公立大学の下山准教授をはじめ、若手経営者やまちづくり活動に従事する20～30代の方々にお集まりいただき、若者が主体性・自主性、若者らしさを発揮するための組織「(仮称) 釧路わかもの会議」の立ち上げにあたって、

会の名称、理念、仕組み自体も構築してもらいます。

- この釧路わかもの会議を通じ、未来を担う若者が育ち、また次の世代を育みながら、釧路のまちが若者の力で持続的に発展する形が生まれてくることを強く期待するところです。
- なお、名称や活動内容等については、現時点で確定しておりませんので、今後は、発起人による協議を進めていただき、9月下旬の正式な創設を目指していきたいと考えております。

## 2. 大楽毛中学校の長寿命化改修工事の完成について

- 続きまして、耐震補強工事と併せて実施し、この8月に完成いたしました、大楽毛中学校の長寿命化改修工事についてお話しいたします。
- この改修工事は、平成25年度「学校施設老朽化対策先導事業」として、文部科学省から全国4校指定の1校として、実施したものです。  
大楽毛中学校の改修工事の特徴は、長寿命化の技術、事業費、運営費のコスト削減、地域と協議しながらの事業実施などで、今後、全国の自治体のモデルとなっていくものであります。
- 特に、地域からも強く要望されておりました、地域の安全安心の確保のための津波緊急避難施設としての機能を備えることとし、敷地内に校舎の外から学校の屋上まで上ることのできる避難階段を設置して、地域住民が外から容易に避難できる一時避難場所も整備いたしました。
- 10月5日（水）には、この避難階段を使って地域住民と生徒の皆さんが合同の避難訓練を実施し、学校と地域が連携する施設として活用してまいります。
- 大楽毛中学校が学校施設としての役割を果たしていくと共に、周辺にお住いの住民の要望を叶え、安全安心な暮らしを確保するための津波避難施設の拠点として整備したことで、本地域での防災対策が進んだものと考えているところです。

## 3. 質疑要旨

(質問)

- ・ わかもの会議の創設について、立ち上げて話し合う場を設けることは非常にいいことだと思いますが、実際に結果がどのように活かされようとしているのか、また、何回くらいの会議を開いて何を目標そうとしているのでしょうか。

(市長)

- ・ 目標は「『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ」という重点目標に向けて、どのように進めていくかということです。発起人会には出張中のため出席できませんでしたが、その後議事録を読ませていただきました。発起人会では進め方についてのご意見をいただいているところで、個別の事業についてではなく、取り組みの中で人を巻き込みながら、メンバーとお話ししながら行っていくという考え方で進めていくものです。

(都市経営課長)

- ・ 年間何回開催するかということも含めて会議でしっかり議論していきます。基本的には、若者たちが考えたことを応援できる仕組みや、具体的な事業化、イベントなどで行動していく仕組みづくりが大きなポイントだと思います。

発起人の方たちにいろいろと議論をいただいております、まずは9月末開催予定の会議で、今年の実施内容などが決まります。今年度は2回以上実施できればと考えており、今後も継続して取り組んでいく予定です。

(質問)

- ・ 単年度で終結というわけではなく、複数年度にまたがるということですね。委員の任期はどのくらいですか。

(都市経営課長)

- ・ 任期についても発起人会で検討してもらっているところです。ただ、出入りが自由だと組織がまとまりませんので、一定の整理は必要かもしれませんが、任期は定めないことになると思います。今は、発起人を中心に人を集めたり、広く公募するなど、集め方についても議論いただいております。

(質問)

- ・ わかもの会議は、市長の諮問機関のようになるのでしょうか。

(都市経営課長)

- ・ 市長の諮問機関というわけではありません。

(市長)

- ・ まちづくりを進めるには若い人からの意見が必要だと思っており、各団体からいろいろな意見を聴きながら、いろいろなことを進めていきます。若い人からの意見が市の計画などに少しでも入ってくること、若い方も市政に意見を言っていこうという気運になってくると思います。まちに対する想いを発言していくような機運を作り上げていくことが、『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ」というものに繋がっていくと思っております。

(都市経営課長)

- ・ 若者がこの町に住み続けていただきたいと思ってもらう、あるいは今頑張っている若者たちもいますが、そういう気持ちがあるのに行動できていない人もいますので、そういった人たちの発掘を基軸に動いていこうと発起人会で話していたところです。

(質問)

- ・ 大楽毛中学校について、事業費や運営費はどのくらいのコスト縮減になっているのか教えてください。

(施設計画主幹)

- ・ これまでは、40数年経過した建物は建て替えをしていましたが、今後は既存施設の延命化を図り有効に活用するという方向に向いています。

今回の改修では、躯体の劣化を防ぐ長寿命化対策工事などにより、壊して新たに建て替えた場合と比べて、約35%のコスト縮減が図られ、約65%の経費で完成したということになります。

(質問)

- ・ 結果的に縮減にもなり、今後、全国の学校のモデルにもなるということですが、どの部分がどういう具合に画期的ということですか。

(学校教育部総務課長補佐)

- ・ コンクリートが直接外気に触れないように外断熱材で改修をし、躯体自体を痛めないように長寿命化を図っていくということです。

(質問)

- ・ 外断熱の工法を釧路市の他の学校でもやっていくということになるのですか。

(施設計画主幹)

- ・ この市役所もそうですが、建物の外側はコンクリートの壁で、内側で断熱をする造り方が一般的で、その場合、外気に面している躯体を塗装などで仕上げをし保護しています。

ただ、仕上げ材の劣化が進むと、そこから雨水が入り、コンクリートのヒビなどから内部に浸透し鉄筋を腐食させる原因になったり、本来はアルカリ性でなければならぬコンクリートの中性化も進行し強度が落ちていきます。

そういった要因を防ぐために、外壁の周りに外から断熱材を貼るという形で躯体も保護する工法をとっているものです。

現在の大規模な改修では、ほとんどこの工法で改修しているところです。

(質問)

- ・ 大楽毛中学校は建設から何年経過していますか。

(施設計画主幹)

- ・ 昭和53年建設で、築38年になります。

(質問)

- ・ 工事費はどれくらいですか。

(施設計画主幹)

- ・ PFI事業の中の一つの事業であるため、明確に分けるのは難しいのですが、長寿命化改修と耐震補強工事で約10億円です。

(質問)

- ・ 地域住民は何名くらい避難できるのでしょうか。

(学校教育部総務課長補佐)

- ・ 地域住民は480人を想定しており、学校の生徒教師含めて全体で720名が屋上に避難が可能となっています。

(質問)

- ・ わかもの会議について、将来条例化という話まであるのでしょうか。

(都市経営課長)

- ・ 発起人会ではそのような議論はありません。

(市長)

- ・ 若い人のいろいろな意見が政策のどこかに反映されるということが大事だと思っています。

(質問)

- ・ 大楽毛中学校について、長寿命化によりあと何年使えるのですか。

(施設計画主幹)

- ・ 今後40年から50年使えるようにすることを目的としています。

(質問)

- ・ 資料には建築後100年程度とありますけれども、あと60年ということでしょうか。

(施設計画主幹)

- ・ 100年は目標です。文部科学省では躯体は100年の長寿命化を図るという方針がでているものです。

(質問)

- ・ 長寿命化ではなく、同じものを建てるとどれくらいかかりますか。

(施設計画主幹)

- ・ 15～16億円はかかると思います。

(質問)

- ・ 建て替えると15～16億円かかるところが、長寿命化により10億円ですむということですが、長寿命化によりその後のメンテナンス費用が、40年から45年で建て替えるよりも多くなるということはありませんか。

(施設計画主幹)

- ・ 長寿命化においても定期的な改修は必要となりますが、管理費を含めても長寿命化費用は、壊して建て替えるよりはかかりません。

(質問)

- ・ 大楽毛中学校の工事完成にあたっては、地域住民の方を呼んで内覧会などは予定していますか。

(施設計画主幹)

- ・ 内覧会の開催予定はありませんが、10月5日に予定されている防災訓練の時に施設設備を見てもらうこともあると思っています。

(質問)

- ・ PFIとは、具体的にはどのような内容なのでしょうか。

(学校教育部総務課長補佐)

- ・ 民間の資金活用ということになります。大楽毛中学校は、他の学校と合わせて全部で6校をまとめて発注いたしました。完成により、全部の工事費を一遍に支払うのではなく、何年間かで支払っていくのがPFIということになります。

(市長)

- ・ これまでは1校1校を改修しておりましたが、15校の耐震改修を早期に完成させる手段として、数校ごとのグループ分けをし、PFIにより工事を発注しています。民間側では、市からの割賦払いと合わせて、建設に係る補助金が入る仕組みです。市では支出の平準化が図ることができ、割賦払いにより民間の資金も活用されるということになります。

(質問)

- ・ 台風が3つ上陸して十勝がひどい状況にあります。先日十勝の清水町に行ったところ、清水町の職員が口々に言っていたのが、ハザードマップに載っていない川が突然暴れだし、中心街に水が押し寄せてきて、あまりにも想定外だったということです。南富良野町の災害対策の職員もこんなことになるとは予想していなかったと口々に言っていました。

釧路市にも釧路川、新釧路川があり、今回は幸い湿原がいいスポンジになって水の吸収もよかったために災害がなかったと思いますが、他都市の災害を踏まえて、今後、釧路市で水害対策の見直しの可能性があるのでしょうか。

(市長)

- ・ 起こりうる様々なことに対して進めていくことが、我々自治体の務めだと思っています。そのためには、国や道、それぞれの地域で広域に連携して進めていくことになると思っています。

(質問)

- ・ ハザードマップや防災計画の見直しということも視野に入れながら行動していくということでしょうか。

(市長)

- ・ これから起こりうることに対応していくのが我々現場ですから、市民生活を守るために必要なことは行っていきます。

(質問)

- ・ 今回、台風が一度に3つも来たことによる災害の現状を、市長としてどのようにとらえましたか。

(市長)

- ・ 亡くなっておられる方もおり、とんでもないことが起きたということが一つ、あわせて今まで起こらないと思っていたことが、環境、温暖化のせいで起こるようになってきたのかなと考えています。こういった現実、事実をとらえていきながら、様々な対応をしていく必要が出てきていると考えています。

(質問)

- ・ 今日、駅周辺整備についての有識者検討部会の中間報告が出ました。今後、JRの情報等も踏まえなければいけない部分もあると思いますが、中間報告で、鉄道高架を基本とするという方向性が出たということ踏まえて、市として、来年度に向けた動きは出てくるのでしょうか。

(市長)

- ・ 平成23年度の東日本大震災を受け、市民生活の安全、防災の観点ということで、いろいろと検討を始めていったところです。有識者検討部会の方に、現状のまちづくりを踏まえた中にご議論いただき、地域の安全、安心を確保するためにも、高架化がより効果的であるという報告をいただいたところです。

市としましては、この中間報告を受けて、都心部まちづくりの検討状況なども踏まえながら、中間報告に対する市としての考えをまとめていきたい。

(質問)

- ・ 来年度予算に調査費を盛り込むなどの流れになっているのでしょうか。

(市長)

- ・ 予算についてはこれからになります。また、9月定例市議会で議論されると思いますし、今日これから市議会特別委員会に示してご意見をいただく形になると思っています。

(質問)

- ・ 鉄道高架という方針は、これから検討するということですか。

(市長)

- ・ そういうことです。今後、この中間報告に対する市の考え方をまとめていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 年度内ぐらいですか。

(市長)

- ・ 今回は中間報告で、道のレベル2を想定して進めましたけれど、最後は国の中央防災会議による国の津波の公表の内容がどのようになるのかが必要になってきます。

(質問)

- ・ それが出ないと市としても決められないということですか。

(市長)

- ・ 当初は、もう既に公表される予定であったものが、どんどん遅れている状況であり、困っているところです。

(質問)

- ・ 先ほどの防災の件で、国や道と連携していきたいということでしたが、いろいろな見直しに向けて、防災危機管理課へも指示を出すおつもりなのでしょうか。

(市長)

- ・ 情報の収集は必要なことだと思っており、私どものところだけでどうこうできるものではありません。新釧路川は一級河川で、国の管理になります。今回水位が上昇した阿寒川は道の管理ということで、このような状況になれば、道として今後どうしていくかという話になりますから、情報をしっかり集め、共有しながら進めていくことになると思います。

(質問)

- ・ 新釧路川、釧路川、大きい2つの川がある他に、先ほどおっしゃった阿寒川などの小さな川が釧路市内にあるわけです。清水町の川もあふれるわけがないと思っていたところであふれたわけで、そういった川も当然防災の対象となってくるのかと思いますが、いかがでしょうか。

(市長)

- ・ 今後、雨量をどのように想定していくかということになります。これまで大丈夫だったものがこれからどうなっていくかということになり、どういったことを想定しながら進めていくかが議論になると思っております。国や道、他の自治体

との連携が必要になってくると思っています。

(質問)

- ・ 基準の引き上げも含めて議論していくということでしょうか。

(市長)

- ・ 地震、津波を含めて想定外をつくらない、という形で国も進めておりますので、自然環境の変化の中でどういったことが起こりうるのか、考えていかなければならないと思っています。

(質問)

- ・ できるだけ早く着手したい、行動したいということでしょうか。

(市長)

- ・ 市だけでできることではなく、北海道全体で対処を考えていかなければならないと思っています。

(質問)

- ・ これからサンマやイワシの船団が入ってきますが、このまき網船団が釧路ではなく八戸などの遠くへ荷を下ろすようになれば、釧路の水産業界にかなり痛手になるのではないかと考えており、地元の水産業界に向けて何かしなければならぬ状況ではないでしょうか。

(市長)

- ・ まき網船団については、今年の春、岩隈副市長が各船団のところをお願いにまわっており、釧路に水揚げしたいというお話をいただいていると聞いております。台風により被災した交通網の影響については、物流への影響が考えられるかもしれませんが、現状では、まき網船団はこちらに揚げると聞いております。ただ今後は、交通網の被災状況が悪い要因となりうるかもしれません。安定した経済活動を地域で進めていくためには、インフラが間違いなく必要で、ここが脆弱であると北海道の持つポテンシャルを活かしていくことができなくなるわけです。ここをしっかりと進めていかないといけないと思っています。

(質問)

- ・ 先ほどの鉄道の高架化について、中間報告の中では高架化がより効果的となっておりますが、これから市で検討を進めるうえで、高架化を前提として検討することになるのか、それとも、改めて高架化と橋上化のどちらがいいのかについて検討していくのか、どちらになるのでしょうか。

(市長)

- ・ 中間報告をいただいておりますので、報告に基づいた検討になっていきます。高架化が効果的ということでもありますので、そこを前提に検討していくことになります。